

平成29年度畜産業振興事業の執行状況

(単位:百万円)

区分	予算額	実績額	予算 繰越額	不用額	不用の主な要因
畜産業振興事業 (うち執行残額が大きい事業)	140,243	42,721	13,022	84,499	
1 肉用牛繁殖経営支援事業	17,570	172	45	17,353	黒毛和種及び褐毛和種の子牛価格が高値で推移し、平均売買価格が支援交付金の発動基準を下回ることがなく、これらの畜種以外の肉専用種を除き支援交付金の交付を必要とする事態に至らなかったため。
2 肉用牛肥育経営安定特別対策事業	86,808	31,033	8,823	46,952	肉用子牛生産頭数の不足等の影響もあり、肉用牛肥育農家の子牛導入頭数が当初計画頭数を下回ったことに加え、28年度の基金残を勘案し、29年度は肥育牛1頭当たりの積立金を減額したことから、補填金の財源である基金の造成額が当初予定額よりも小さくなったため。
3 養豚経営安定対策事業	9,870	0	0	9,870	豚枝肉価格が高値で推移し、平均粗収益が平均生産費を下回ることがなく、補填金の交付を必要とする事態に至らなかったため。
4 酪農経営支援総合対策事業	4,075	1,938	1,509	628	乳用牛価格の高止まりから、優良乳用牛のリース事業等において、計画どおりの導入が困難となったこと、また、酪農ヘルパーの傷病時利用が少なかったこと等により、当初計画を下回ったため。
5 食肉流通改善合理化支援事業	3,536	1,572	0	1,964	中小食肉卸売事業者に対する民間融資の円滑化を図るために債務保証を受けている事業者において、代位弁済を必要とする事案が少なかったため。
6 畜産副産物適正処分等推進事業	6,487	4,850	802	835	牛と畜頭数が減少傾向で推移したことに伴い、牛せき柱等の処分対象数量が当初計画数量を下回ったため。

注1：補助金ベース。事業毎の予算額は年度当初のものであり、途中で追加された緊急対策を含んでいない。

注2：「不用額の大きい事業」は、不用額5億円以上で整理している。

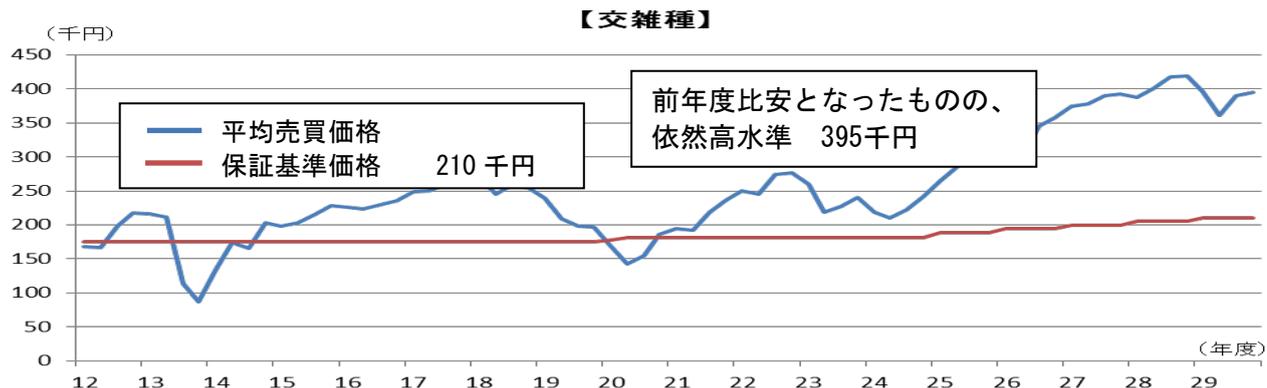
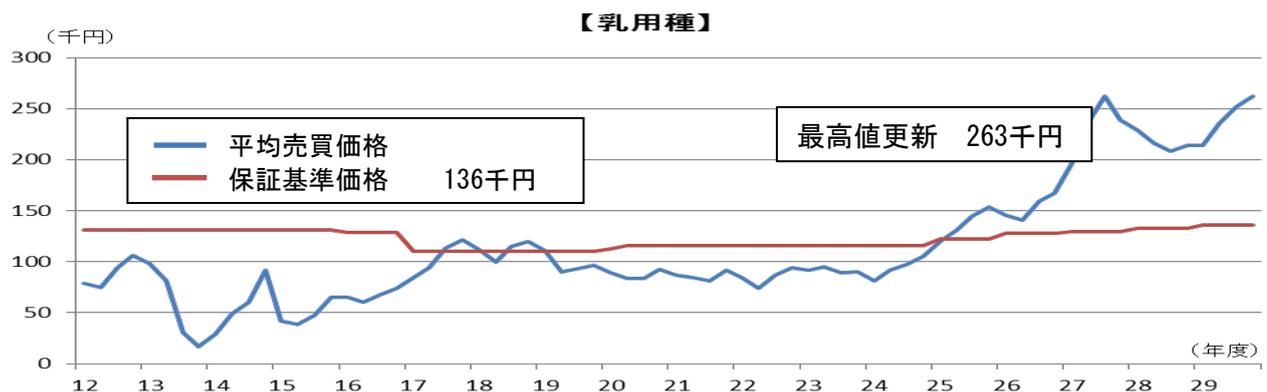
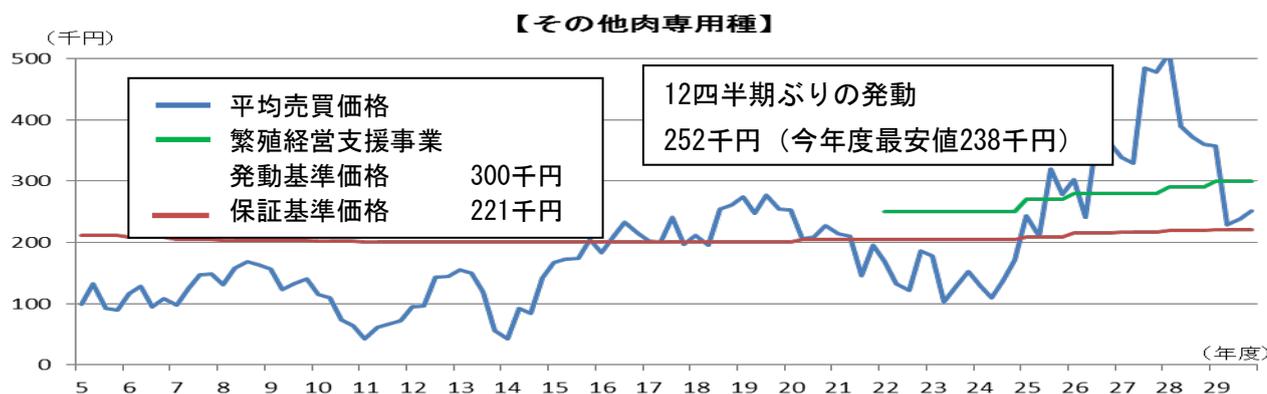
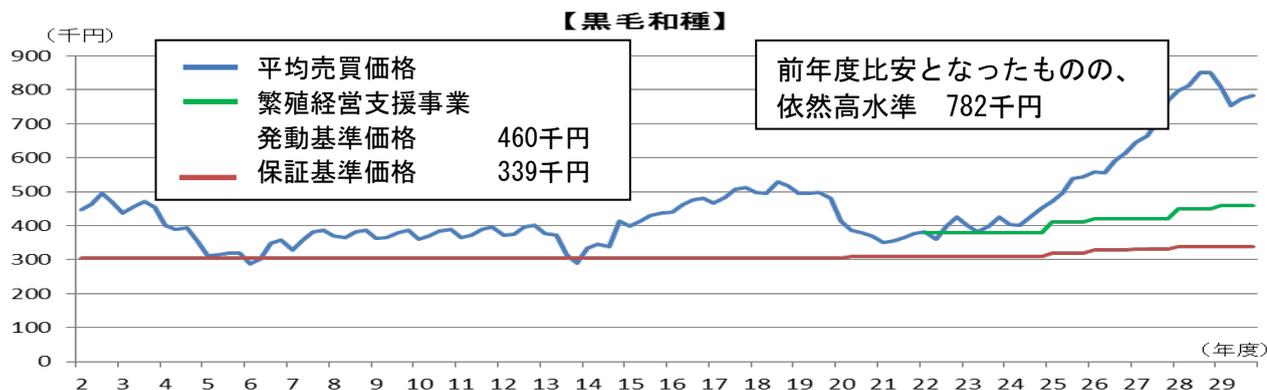
注3：予算繰越を行った各事業の理由は、以下のとおり。

- ①表中1, 2の事業については、29年度第4四半期分の交付又は基金造成等に係るものであり、30年度に執行される見込みである。
- ②表中4, 6の事業については、事業実施主体から間接補助事業者に対する補助金交付の一部が翌年度になったものである。

肉用子牛の平均売買価格の推移

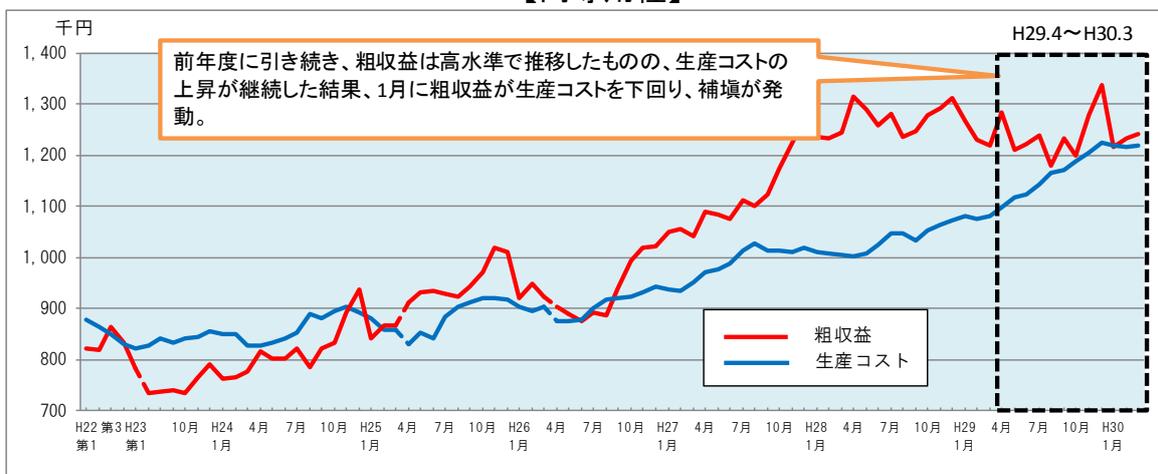
平成 29 年度の肉用子牛の平均売買価格は、全品種で保証基準価格を大きく上回り、肉用子牛生産者補給金は 19 四半期連続発動なし。肉専用種について補給金制度を補完する肉用牛繁殖経営支援事業（注）については、日本短角種を含む「その他の肉専用種」で 12 四半期ぶりに発動。

（注）対象肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種）の平均売買価格が発動基準を下回った場合、当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛に、差額の 3/4 を支援交付金として交付

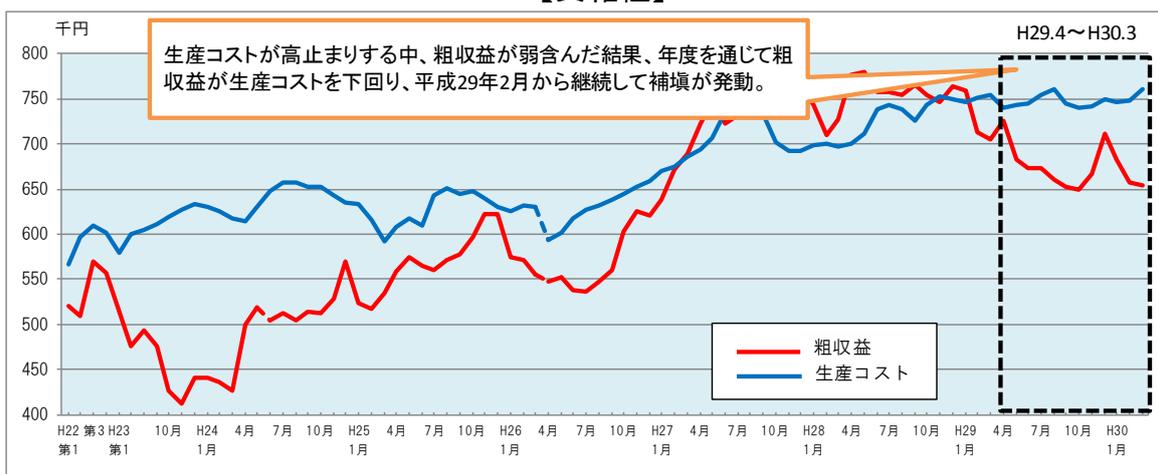


肉用牛肥育経営安定特別対策事業 粗収益及び生産コストの推移

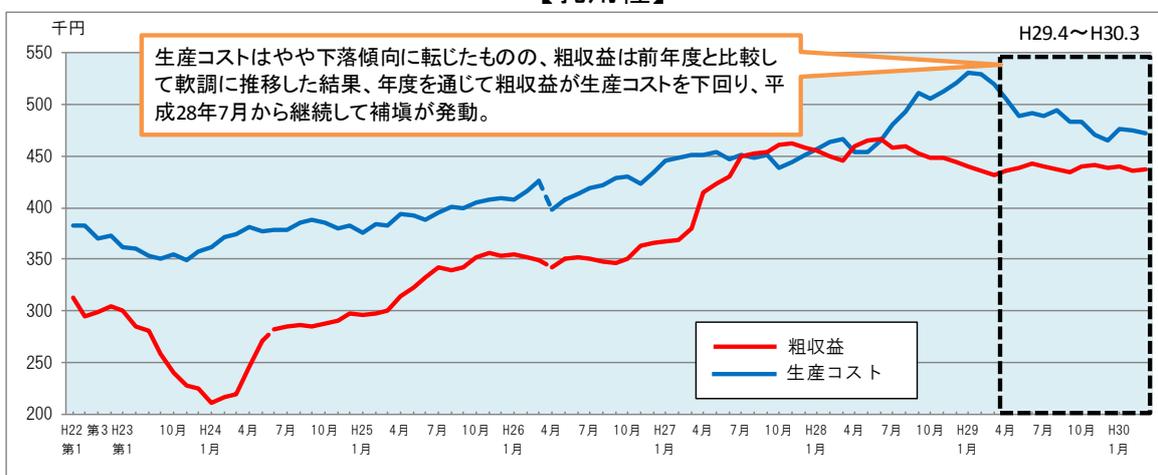
【肉専用種】



【交雑種】

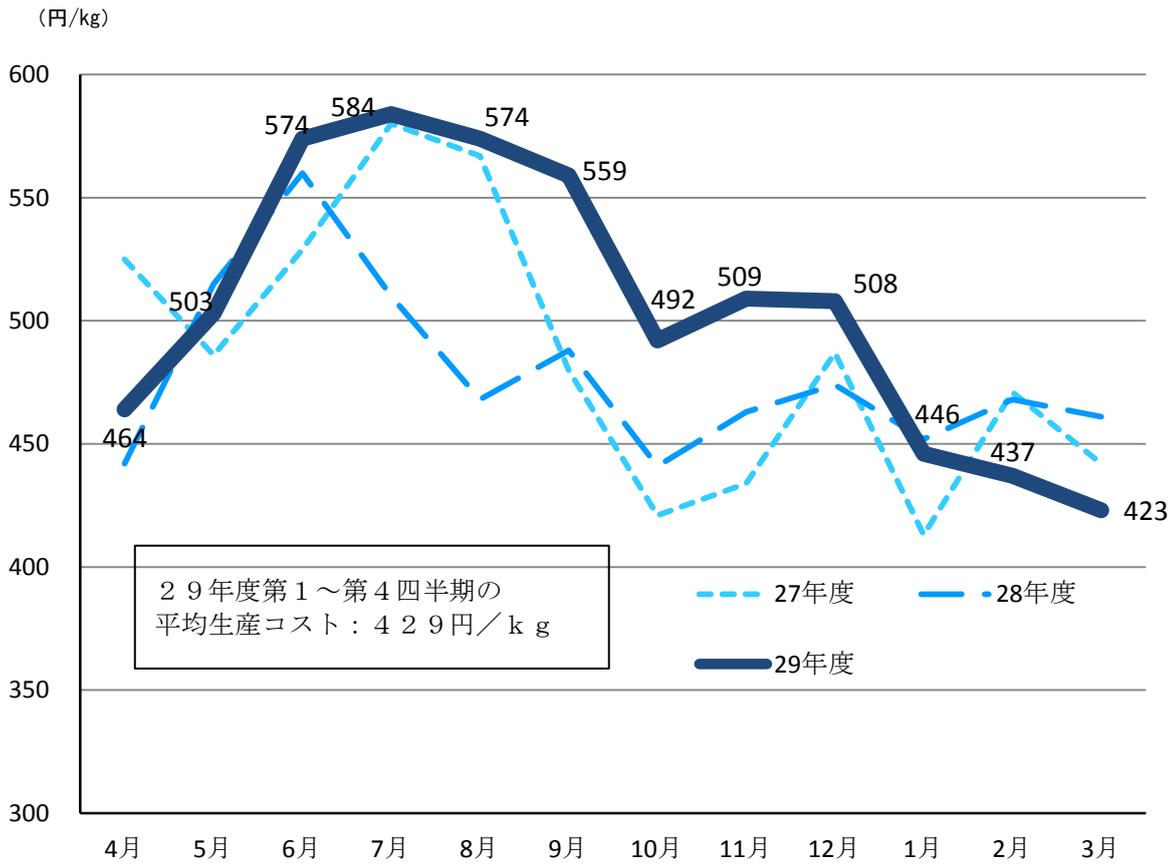


【乳用種】



注：消費税抜き

豚枝肉価格の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」28市場並以上

注：消費税抜き